

ジオパークは難しい……か？ ～下北に生きる意義と自然資源の価値を再発見～



むつ市長 宮下 宗一郎

ジオパークは難しい。ジオパークはわかりにくい。そんなご意見をよく伺います。ジオパークって何したらいいんですか？とも聞きます。

ジオパークとは「大地の公園」と言われ、その地域に存在する自然資源がどのような地球の活動によってもたらされたかを知ることになり、その影響が身の周りの生態系や自然環境、そして私たちの暮らしとどのように関わっているかを考える場所です、と説明しても、わかったようなわからないような。これも定義を説明しているだけで、動的な取り組みとしてのジオパークは説明できないような気がします。

最近、私は「ジオパークは、ふるさとの自慢話をみんなができるようになることです。」と説明しています。そして、そのために必要な取り組みをみんなで進めるのがジオパーク活動です。

たとえば、ホタテの話。

我々は日本一おいしいと言っています。それでは、なぜおいしいのか。

ジオ的に説明するとこうなります。

- ◎下北の森林 広葉樹が多い
 - ◎雪解け水 広葉樹の腐葉土を透過してくる栄養塩が多く含まれる
 - ◎白神山地の雪解け水も 海流で陸奥湾に入ってくる
 - ◎日本でも有数の栄養 ホタテはそれをパクパク食べて育つ
 - ◎下北の自然がつまった食材 だからおいしい
- こんな自慢話。

それから、恐山の話。

- ◎全国的にも有名な信仰の土地
- ◎賽の河原や極楽浜の景色 この世のものとは思えない

- ◎まず、活火山
 - ◎白い岩 噴出している硫黄で酸化
 - ◎酸性の湖 生物が少なく透明度が高い
 - ◎噴火でできたカルデラの真ん中にある恐山 囲む山々は蓮華八葉
 - ◎このすべてが霊験あらたかな土地に仕上がっている
- これも自慢話。

こういった話を、まずは徹底的に知る。そして地域をあげて保全する。さらに観光や教育などに活用する。というすべての取り組みがジオパーク。

現在、日本国内では36地域が「日本ジオパーク」に、そのうち7地域は世界ジオパークに加盟認定されており、太古の地球の活動と現代を生きる私たちの生活とを結びつける活動を展開しています。

その仲間入りをして、まちのよさを知ってもらい、訪れてくれたみなさんをもてなす。

日本三大霊場の恐山をはじめ、仏ヶ浦や尻屋崎などの景勝地のほか、大間マグロや風間浦鮫鱈に代表される豊かな食材に恵まれる下北半島。

一つ一つの資源の素晴らしさを実感し、それらが「どんな地球の活動で出来たか」や「なぜこの特産品は下北で生まれたか」などと、ジオ的に考えたり体験したりすることによって、ふるさとに誇りを持ち、みんながまちを自慢できるようになる。

住んでみたいと思うような活気あるまちになり、だれもが訪れてみたいと思うまちとなる。そのためのジオパーク。

ところで、みなさん、日本地図を見ると、誰もが一度は目にしたことがある「まさかり」の形。この大地は、いつ、どのように出来上がったのかを考えたことはありますか。